

## 輝け、シニア

先日、私の友人であるKさんから挨拶状が来ました。

その内容は、これから2年間、モンゴル北方の町ダルハンというところで農業大学の教員として仕事をするというものでした。

実は、Kさんも私も同じような年代ですので、そろそろ第二の人生を楽しむ頃とっておりましたので、突然のこととはいえ大変驚きました。

今回のミッションは、JICAのシニア海外ボランティアの一環として「エコツーリズム」についての授業を担当するのだそうです。

彼は、某新聞で長年記者を勤め、その後は本社の幹部として活躍しておられましたので、モンゴルに行かれても、これまでのキャリアを活かして活躍されることでしょう。

団塊の世代が大量に定年を迎える時代になりました。私が若い頃は55歳で退職というのが普通でしたし、退職後は悠々自適の生活をされる方も多かったと思います。

しかし、今は定年年齢が60歳と5歳延びたにもかかわらず、年金の問題もあり働かずにはられないというのが実態です。

また、昔の退職者と今の退職者を見比べてみると元気度が随分と違うように感じます。私が就職した頃の先輩は、30代だったはずなのに印象としては随分と老けていた、今の50歳位の感じだったように感じます。

今は大変元気なお年寄りが沢山いらっしゃいますし、健康である限り働き続けたいと思っている方も多いと思います。働きたいという事情は人それぞれだと思いますが、定年も過ぎて、それなりの年齢になったら、お金のために働くというより、社会に貢献する、社会になにがしかお返しをする。そんな気持ちで働くことができれば最高ですね。

人生50年時代から今や人生80年時代になり、人生が30年も伸びてしまいました。

定年後の人生もまた、随分と長くなりました。こうして与えられた時間をどう過ごすかは、勿論人それぞれの考え方、生き方の問題ではありますが、しかし、決して個人だけの問題でもありません。

お年寄りの皆さんが（といっても他人事ではありませんが）、いつまでも元気で企業や地域コミュニティの中で役割を果たしていくことは、社会的コストの面からも重要なことです。

まあ、どなたでも「濡れ落ち葉」で良いと思っている人はいないでしょうが、家に引き籠もってではろくなことにはなりません。

私も、仕事中毒を癒して、Kさんのようにモンゴルに行くというところまではいきませんが、せいぜい生涯現役を気取ってみたいと思っています。

（塾頭 吉田 洋一）